

ウェルビーイング 神戸モデルの構築



神戸大学 理事・副学長

ウェルビーイング推進本部 本部長 木戸 良明

巻頭言

最近「ウェルビーイング」という言葉をよく聞きます。あらためて「ウェルビーイングとは？」と考えてみますと、WHO憲章では「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に病気や病弱でないことではない」とされ、SDGsの目標では「すべての人に健康とウェルビーイングを」が掲げられています。このように国を超えて実現を求められている重要な概念であることは間違いありません。教育・ライフスタイル・働き方などを含めて、誰もが人生において多くの幸福を感じられることが重要とされています。

ウェルビーイングは健康と関連づけられることが多いのですが、健康でないからといって、必ずしもウェルビーイングが低いわけではないと思います。感染症を恐れて外出を我慢すると健康は維持できるかもしれませんが、それでウェルビーイングが高いといえるでしょうか。また、多くの人が便利で快適な暮らしを享受する一方で、そこから引き起こされる紛争や貧困、食糧問題や環境問題など矛盾が存在します。つまり、ウェルビーイングの実現は個人の幸せを考えるだけでなく、人を取り巻く環境や社会も同時にウェルビーイングを追求しなければならぬのです。平均寿命や学力など日本がこれまで達成してきたことと、幸福度や出生率の低さ、収入不平等などこれから解決すべきことを整理しますと、発想の転換による問題解決が必要であるという視点到達します。

そこで、神戸大学ではウェルビーイング実現のため大学が何をすべきかについて、議論を重ねています。日本を取り巻く環境の変化や直面する諸

問題に対応するには、大学こそが、広い視野でこれからのウェルビーイングのあるべき姿について考え、総合知をもとに、産官学民の力を連携・協働させて、ウェルビーイングの推進に貢献できると考えています。神戸大学は、国際都市神戸において、人文科学系、社会科学系、自然科学系、生命医学系の学術系列を有する総合大学で、ウェルビーイングと直結する教育・研究・社会活動において豊富な実績と経験を持っています。

生まれてから死ぬまでの生涯にわたるウェルビーイングはいかにあるべきかを定義し、ウェルビーイングの実現を支える外部要因（環境や社会システムなど）をあきらかにすることで、人間と社会や環境がともに影響しあい、人間のウェルビーイングと社会のウェルビーイングをともに実現するための方策について科学的エビデンスをもとに検討し、提案することを目指しています。総合大学の強みを生かして医学、心理学や健康医学を専門とする研究者と、経済環境や自然環境の研究者が、あらゆる研究領域の英知を集め、ウェルビーイングの実現に資する研究を統合して新しい学問領域を設立するとともに、ウェルビーイング社会の実現に貢献する人材を育成する「ウェルビーイング神戸モデル」を構築したいと考えています。そして、このモデルから生み出される成果を自治体、産業界、地域社会の皆さんへ発信し共有することで、新たな価値や考え方が創造できると考えています。

神戸大学は、ウェルビーイングに関する研究と教育の拠点となり、誰もが心豊かで幸せを実感できる社会の実現に貢献してまいります。